



みんなてつくろう！ようかいちのまち

八日市まち協だより

第48号

平成30年8月発行

平成30年度まち協交流会が開催されました

7月14日（土）午後、『各地区の取り組みについて互いに学び磨きあう！』という目的のもと、アピアホールにて東近江市内まちづくり協議会交流会が開催されました。市内14のまちづくり協議会の関係者と地域担当職員合わせて約140名、八日市地区からは高村代表以下15名が参加しました。

須田智廣協議会会長（市辺地区）の挨拶、来賓の小椋正清東近江市長の祝辞に続いて、まちづくり自慢大会と称して昨年の交流会で活動発表をしていない中野地区、五個荘地区、玉緒地区、能登川地区、市辺地区、八日市地区、蒲生地区の7地区が持ち時間7分で活動自慢をしました。それぞれの地区ごとに地域の特性を生かした活動自慢でした。

わが八日市地区は新規プロジェクトの防災プロジェクトと歴史文化プロジェクトについて発表しました。

どの地区の発表についても参加者からの質問（ピンク付箋）とアドバイス（黄色付箋）が寄せられ、当日のコーディネーター川北秀人氏（IIHOE[人と組織と地球のための国際研究所]代表）が紹介し、各地区の代表者が回答しました。

八日市まち協の防災プロジェクトでは、東本町に設置した防災非常用井戸の

設置について質問があり、防災PJの小嶋リーダーから設置の経緯について説明しました。また、歴史文化プロジェクトには、プロジェクトのメンバーについての質問がありました。

歴史文化PJは4月に発足したばかりでメンバーは確定していませんが、今はふるさと五感アンケートを集めている段階で、これから聞き取り作業などを通じてメンバーを広げていく考えを示しました。

このほか、模造紙に貼り出された参加者からの質問やアドバイスを見ると

防災プロジェクトでは

- ・八日市地区では災害に対して何が弱点と考えていますか。
- ・住民に対しての意識調査をされていますか。
- ・防災プロジェクトをどのように地域に浸透させて行く計画ですか。

歴史文化プロジェクトでは

- ・ふるさと絵屏風の活用方法について。
- ・ふるさと絵屏風は、ぜひ学校の地域学習で使って欲しい。
- ・地域の語り部に参加してもらいたい具体的な方法。
- ・絵屏風を常設展示する予定は？。

など、第三者の視点での書き込みが多く、今後のプロジェクトの展開に大いに参考になりました。

まちづくり協議会が立ち上がって10年余りが経過し、どの地区も工夫を凝らし努力されていますが、川北氏は「地域の現場づくりから人づくりの段階に入ってきた」と講評され、活動継続のため、次の担い手の育成の重要性が語られました。

（藤田）

